

わかものアクション^{アワード}準大賞に 発足10年の富士宮高校会議所 地域共生大賞でも最優秀賞



しぞーかわかものアクションアワードに参加した皆さん

発足から10年を迎えた富士宮高校会議所は、このほど行われた「第1回しぞーかわかものアクションアワード」で準大賞を受賞した。大学生などの地域活性化団体が多い中で、日ごろの活動について、いきいきと発表し、今後の糧となる経験を積み、現に向け新たな意気込みを見せている。

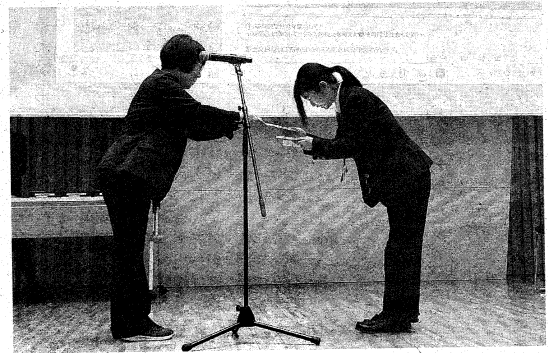
また、社会福祉法人県社会福祉協議会が募集した2025年度ふじのくに地域共生大賞でも最優秀賞を受賞し、地域共生社会の実現に向け新たな意気込みを見せている。

動を取材・調査・編集する『しぞーかわかものアクションアワード』を制作するなかで出会った若者の姿をもっと多くの人に知ってもらい、若者の活動を応援し広げていこうと開催された。

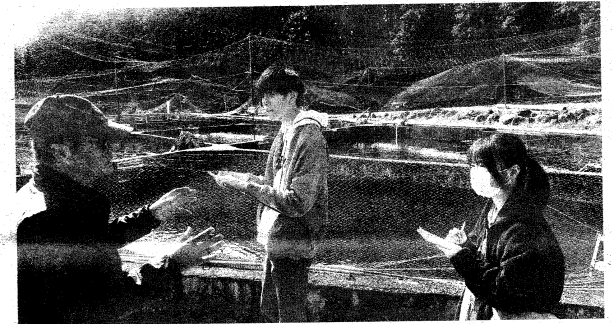
同会議所は1次書面審査を通過し、2月に行われた最終プレゼンテーション審査会に出場。審査には同会議所のほか、富士市のNP

一方、ふじのくに地域共生大賞は誰もが地域の中で役割と生きがいを持つ「地域共生社会」の実現に向け、多様な主体・分野が連携協働して展開される活動を表彰するもの。

同会議所は「SDGs実践 マスマス元肥を马斯元気に！」として高校生が中心になり、地域の特産物であるニジマスを利用した堆肥



ふじのくに地域共生大賞で表彰を受ける



くぬぎ養鱒場を見学

作り・販売に企業と共に「今後の進路について取り組んだ点が高く評価され大賞に輝いた。」

同会議所はこの間、(株)プロニューマーの渡邊彩専務取締役を招き「パールで語るイタリ

さらに、富士宮市精進川のくぬぎ養鱒場を見学し、地元の名産であるニジマスの養殖について工夫や出荷状況、課題などの説明を受けた。このほど開かれたにじます祭りは、くぬぎ鱒の鱒とは

を使ったおにぎりを販売するなどして、今後のコラボへ意欲を見せていた。

なお、同会議所では会頭を新たに選出し、富士宮東高校2年の高野唯花さんが第11代会頭に就任した。高野新会頭は高校会議所の活動で得られた貴重な体験から自信をもって動けるようになったとして、今後も地域活性化のために盛り上げていきたいと抱負を語った。